

北河内地区

枚方こどもまつりで健診

小雨について200人が受診

「むし歯がありますね。行きつけの歯医者で診てもらってください」。早期発見を通じて住民の健康を守り、有病者には受診をうながすことを目的に協会の北河内地区が毎年取り組んでいる枚方こどもまつりでの無料歯科健診が10月26日、啓光学園体育館(枚方市内)内で行われた。あいにくの小雨模様にも関わらず歯科健診コーナーは例年になく盛況で、200人が受診した(子ども155人・大人45人)。スタート前から「何時から始めますか」と聞きに来る母親もいて、期待の高さうかがわれた。出務は、石原健也・有望望歯科医師と

歯科衛生士4人、歯科技師3人と事務局。石原氏は、「親子ともに診る機会が多いこの健診では、むし歯がある子どもの親も同じ傾向であり、逆に無い子どもの親の口腔内はきれい」と感想を述べた。また、歯並びが悪く、顎の発育があまり良くない子どもの親へは、キシリトール入りのガムを子どもに咬ませ

せて成長をうながすようアドバイスしていた。歯科技師が担当する石膏で作ったキャラクターに色を塗るコーナーは、真剣に取り組む大勢の子どもたちで賑わっていた。まつりは、太鼓や歌などの出し物をする舞台や遊びのコーナー、模擬店が出店、迷路では子どもたちが元気よくはしゃぎまわっていた。

第23回保団連医療研究集会

病診連携の実態を報告

「いのち—その重さ—と尊厳—いのち—その喜びと希望」をテーマに11月11日、12日、仙台国際センターで開催された。1日目は、朝日新聞記者・伊藤千尋氏の記念講

演「人が生き生きと生きる社会—特派員が見た世界から」、パッハ研究家・川端純四郎氏の特別講演「パッハの音楽が現代に語りかけるもの」があり、基本的な権や平和、民主主義の尊厳が語られ、参加者の感動を呼んだ。開業医の病診連携の実態についての全国共同調査結果は、宮城協会から発表され、連携を強めるために情報提供書の充実や二次、三次医療機関の整備、訪問診療における連携先の確保などが課題として提起された。

2日目にあった分科会には大阪歯科協会から、▽小山榮三氏が「より良くなるはより良く生きる」、地域住民の中での講

演から見えてくるもの、▽山上志雄氏が「ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死」、▽岡野吉喜氏が「歯根膜表面積の算出式について」、▽上原裕之氏が「シックハウスは化学物質から温室度、地球環境へ」の演題を発表した。

2009年新年号 会員投稿を募集

機関紙新年号への会員投稿、写真を募集しています。掲載者には薄謝進呈いたします。
【投稿】700字以内、顔写真を同封ください。
①趣味②日常の臨床や家族のこと③新年に思うこと④エッセイや俳句⑤旅行記⑥干支(牛)に関すること⑦お店紹介など
【写真】新年や冬にまつわる風景・人物写真など。サイズは版以上4つ切り以下。
※原稿は、郵便でFAX(06-6568-0564)で新聞部までお送りください。電子メール(s.yamamoto@doc-net.or.jp)でもお受けしています。12月7日必着

「社員をサーフィンに行かせよう」

環境保護に心砕く経営理念

林 哲平(淀川区)



絵 藤田 進 (河内長野市)

「パタゴニア」。少々アウトドアをかじっている人なら、ご存じの会社である。私も、スキークラフ・フライフィッシング・トレッキングなどでお世話になっているアウトドアメーカーの一つである。社員をサーフィンに行かせようという本は、東京へ学会に行く際に暇つぶしにと思い本屋で目に留まった本である。

学生時代にサーフィンにはまっていた時があったものだから(ロココの作家)。

「テストでは優勝したけども...自慢」迷わずに手が出た。その時は、「ええ会社もあるもんやなあ、もっと早くに知っていたら、こんなややこしい歯医者なんかやらんと、その会社に就職したのに...」と思いつながら購入した。

新幹線の座席にすわり本は前の網へ、まずは駅弁である(これが私の正しい学会行きの行動)。本の表紙が目に入った。「しかし、サーフィンは

いつええ波が来るのか分からぬのに、急に行っても、また何人も行ってしまったら会社は機能するんやろか?」「サーフィンはあかんのか?釣りは?スキーは?」など思いながら本を開いた。

疑問はすぐ解決した。「サーフィンに行かせよう」には、著者の狙いがあった。社員一人ひとりに「責任感」「効率性」「協調性」「融通」などを持たせる為であった。「いい波が来たのでサーフィンに行ってもいいですか?」といちいち上司にスリスリとお伺いをたてず、いつでも波が来た

らサッとサーフィンに行くためには、日頃から仕事に対しての自覚と責任感、自主性、周囲の人間との協調性が必要なのである。そして、真剣なアスリートを多く雇い、よい良い製品を開発するには、深い経験と知識をもつていなければならぬという著者の考えから出た発想であった。これは、会社と従業員がお互いに

この作家 あの特品 10

信頼しているからこそ、この言葉が機能する。文中で彼は「ビジネスこそ、大自然の敵にして先住民文化の破壊者であり、貧しい人々から奪ったものを富める者に与え、工場排水で土壌汚染を引き起こしてきた張本人なのだ」と述べている。そこで彼は、その正義感と情熱で、自然破壊と文化の崩壊を避けるた

めに、すぐにそれを実行した。パタゴニア製品の全てに、生地・染料・縫製する糸にいたるまで、環境を汚染もしくは破壊するものは除外した。そして、純売上高の10%を「地球税」と銘打って、環境保護グループに寄付すると誓約した。死んだ地球からはビジネスは産まれないのである。「あっ」と驚く、為五郎である。

環境を汚染するばかりの大企業に対して法人税をオマケするのではなく、このような努力をしている会社こそ、税金をオマケするべきである。我われの業界もそうだろうか、昨今、経営と銘打ってどこかのコンサル会社が講演したり、集客力とか保険がタメなら自費で、自費率30%アップとか...。医の倫理は、いったいどこにいったしまったのだろうか?はたして、真の健康を得られるのはお金のあふれた人間だけなのだろうか?新幹線の中で、富士山を見ながら私も少し反省させられた。

影響を受けた作家や思い入れのある作品などについて、会員の先生方からの投稿を募集しています。掲載者には薄謝進呈します。

11月度生涯研修 「インプラントの難症例鑑別のポイントとその対応について—すべての患者さんに—」

協会行事案内 電話 06-6568-7731 申し込みは ファクス 06-6568-0564

11月度生涯研修 「インプラントの難症例鑑別のポイントとその対応について—すべての患者さんに—」

日時 11月16日(日) 午前10時~午後1時
会場 M&Dホール(保険医会館隣り)
定員 100人
講師 堀内克啓氏(大阪大学歯学部臨床教授)
会費 会員3千円、未入会者1万円

堺・高石・和泉地区 泉州地区(準)講演会
「インプラントの失敗とその対策」

日時 11月20日(木) 午後8時~10時
会場 なかしま歯科医院2階研修室(高石市綾園3-1-6) 南海本線「羽衣」駅、JR羽衣線「東羽衣」駅より徒歩5分
講師 中島 康氏(高石市開業)
会費 会員無料、未入会者1万円 定員 40人

北河内地区 「経営懇談会」

日時 12月6日(土) 午後6時~8時 定員 30人
会場 枚方市民会館(枚方市岡東町8-33)
話題提供 佐飛淳一氏(税理士) 会費 会員無料
内容 医院の現状から経営のポイントまで、参加者の悩みや質問にこたえへ経営力アップを探る
※「歯科医院の経営展望」をお持ちください

12月度生涯研修 「学校検診や毎日の診療で発見してほしい子どもの不正咬合・顎関節の問題と対応のあり方」

日時 12月7日(日) 午前10時~午後1時
会場 M&Dホール(保険医会館隣り)
講師 井上裕子氏(池田市開業、日本歯科矯正学会認定医・指導医・専門医) 定員 100人
会費 会員3千円、未入会者1万円

南部・東西南地区合同 「これからの指導監査体制、カルテ記載を中心にした指導対策」(仮題)

日時 12月14日(日) 午前10時~正午
会場 保険医会館
講師 社保研究部講師団
会費 会員無料、未入会者1万円 定員 50人

パソコン記帳講座 「弥生会計」を使ったパソコン記帳の基礎

日時 12月20日(土) 午後3時~6時 定員 20人
会場 京橋・弥生方レゾナンスCMC(JR環状線「京橋」駅南口より徒歩3分「大発ビル」内)
講師 柄溝宗生税理士(協会顧問税理士団)
会費 会員ならびに経理担当会員家族・従業員限定お一人につき1万円(未入会者不可)
※当日使用できるパソコンに限りがありますので、定員となり次第、締め切ります。必ず事前にお申し込みください。

未入会者とは、会員院所に勤める勤務医未入会者です
※協会行事などを本紙で報道するため、講習会などの写真で個人が特定されることがありますが、趣旨をご理解の上、ご了承ください。また、講習会でのビデオ撮影や録音はお断りします。
※M&Dホールとは、歯科協同組合が協同組合会館5Fに共同で建てたホールの名です。